

分散自主登校中に文型生徒に対して行ったアンケートの要望を受けて、確認プリントの形式を変更しました。確認①に「解答」をまとめ、確認②に「解説」をまとめています。もう穴埋めだけして解説は読まないという人もいないでしょうから問題は少ないと考えます。この形式変更に対する意見があればまた聞かせてください。

- ◇ 太政大臣、左大臣、右大臣、大納言、少納言、左弁官、右弁官をまとめて太政官といいます。(読み方は「だいじょうかん」です。皆さんが2年生で学習した、明治時代に政体書に基づいておかれたものは同じく太政官と書いて「だいじょうかん」と読ませていました。) また、太政大臣の特徴をあらわす「則闕の官」という言葉は、律令文中の太政大臣の規定「無其人則闕」(其人無クバ則チ闕ク=適当な人材がなければそのときは欠員とする) からきたものです。また左上位の日本式考え方があることから左弁官と右弁官では左弁官のほうに最重要官庁とされる中務省が属していると思われます。
- ◇ 五畿七道のQ & Aでも取り上げたように、東山道が近江国まで入り込んでいたり、紀伊国が南海道に属したりと、やや強引にも思える区割りは、すべての道を畿内に直接接したものにしたいという発想によるものと思われます。西海道のみは直接畿内に接するのは不可能であったことと外交上の重要拠点でもあったことから、特別な機関である「遠の朝廷」大宰府がおかれることになりました。なお、現在の「だざいふ」市は「太宰府」と書きますが古代官庁としては「大宰府」と書かれます。「太」と「大」に気をつけてください。ついでですが毎年必ず十人以上は見られるのが、大宰府の「宰」を、うかんむりに「幸」と書いてしまう人です。正しくは、うかんむりに「辛」ですね。「辛い」を避けて「幸せ」と書いてしまう人には自分でも気づかない何らかの思いがあるのでしょうかね。